

9月27日(土)	プログラム
9月28日(日)	プログラム
特別企画	
特別講演	
教育講演	
大会長講演	
シンポジウム	
ワークショップ	
アフレスス ミニレクチャー	
Asian Session	
シンポジウム	技術
技術委員会	
セミナー	モーニング
セミナー	ランチ
一般演題	
索引	

WS1-3 ワークショップ 1「重症敗血症に対するアフレスス」
Apheresis therapy for severe sepsis

重症敗血症における血液浄化療法

岩手医科大学 医学部 救急医学講座
鈴木泰、小鹿雅博、遠藤重厚

重症敗血症は、循環不全から臓器障害や組織灌流低下を来す病態であり、重篤な病態を来す。しかし、適切な早期診断を行うことで早期治療につながり救命率の向上を来す。米国でも重症敗血症患者数は年間 70 万人を超え、2003 年からの 5 年間で 71% も患者数は増加し医療費も 5 年間で 57% 増加し、社会的かつ経済的問題となってるが院内死亡率は 37% から 29% まで改善し、重症敗血症治療は現在多くの領域で注目されている。死亡率減少の要因に SSCG の存在があげられるが、改訂版 SSCG の初期蘇生である EGDT の項目を当施設の症例で目標達成率について検討すると目標達成が得られなかった症例も救命されており、敗血症性ショック症例すべてに ECGT による管理が必要か検討されるべきである。一方、日本版敗血症診療ガイドラインも臨床に広く用いられてきている。今回、重症敗血症患者 5 例(インフルエンザによる MOF 症例、TSLs 症例、TSS 症例、重症レジオネラ肺炎 2 症例)の救命症例における実際の治療内容について、現在のガイドラインでの治療推奨度と比較しガイドラインを超えた治療のポイントを検証する。例えば当施設では 3 時間以内で初期補液の効果を判断しポリミキシン B 固定化ファイバーの direct hemoperfusion (PMX-DHP) や PMMA 膜を用いた continuous hemedailfiltration (PMMA-CHDF) 等を治療に導入しているが、血液浄化療法のガイドラインについて検証する。また血液浄化療法と起因菌との関係や抗菌剤使用法、IVIg の使用法、septic DIC の治療についてもガイドラインと比較検証する。

Acute blood purification for patients with severe sepsis

Iwate Medical University School of Medicine, Department of Critical Care Medicine
Yasushi Suzuki, Masahiro Kojika, Shigeatsu Endo

利益相反：なし

WS1-4 ワークショップ 1「重症敗血症に対するアフレスス」
Apheresis therapy for severe sepsis

重症敗血症の Plasma Filtration with Dialysis (PDF) 多施設共同研究報告

西京都病院 外科¹⁾、秋田赤十字病院 総合診療科²⁾、彦根市立病院 消化器内科³⁾
秋田大学大学院 医学系 研究科 救急・集中治療医学講座⁴⁾
金沢大学 医薬保健研究域医学系 麻酔・蘇生学講座⁵⁾、滋賀医科大学 医学部 救急集中治療医学講座⁶⁾
吉岡豊一¹⁾、古屋智規²⁾、來住優輝³⁾、中永士師明⁴⁾、谷口巧⁵⁾、江口豊⁶⁾

我々は、アルブミン篩係数約 0.3 のエバキュアー EC-2A (川澄化学) を用いて Plasma Dia-Filtration (PDF) を考案し、多施設共同研究を行いながら施行条件の見直しなどの改良を行ってきた。前回の本学会にて、肝障害を有する重症敗血症を対象に、2005 年 10 月から 2011 年 8 月までの多施設共同研究 48 症例に対し、平均 (±SD) 10.3 (±14.0) 回施行して 28 日後の死亡率は 43.5% (21/48) と報告した。近年、谷口らは一本のフィルターで 48 時間施行する緩徐式 PDF (cPDF) を考案し、急性肝不全に対し 14 日後の生存率が 90% と報告した (J Gastroenterology and Hepatology, 29 (4):782-786, 2014)。今回、2012 年 3 月から cPDF のプロトコルを追加して多施設共同研究を行ったので報告する。症例は 2011 年 11 月から 2014 年 2 月までの重症敗血症 27 例 (64±18 歳、M/F:17/10) と重症脾炎の 5 例 (65±13 歳、M/F:4/1) である。この内 cPDF を各々 24 例と 3 例に施行した。施行前の APACHE II と SOFA スコアは、各々 26.3±6.4 と 14.0±4.5、17.0±7.0 と 12.2±5.0 であった。PDF を各々 4.4±3.0 回 (日) と 5.4±2.7 回 (日) 施行し、28 日と 90 日後の生存率は各々 59.3% (16/27) と 37% (10/27)、80% (4/5) と 60% (3/5) であった。以上より、cPDF を導入した新しいプロトコルは有用であるものと考えられる。今後さらに症例を増やして検討していく。

Effect of Plasma Filtration with Dialysis (PDF) in patients with severe sepsis analyzed by multicenter-study

Department of Surgery, Nishi-Kyoto Hospital¹⁾, Department of General Medicine, Japanese Red Cross Akita Hospital²⁾
Department of Internal Medicine, Hikone Municipal Hospital³⁾
Department of Emergency and Critical Care Medicine, Akita University Graduate School of Medicine⁴⁾
Department of Anesthesiology Faculty of Medicine Institute of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences Kanazawa University⁵⁾
Department of Critical and Intensive Care Medicine, Shiga University of Medical Science⁶⁾
Toyokazu Yoshioka¹⁾, Tomoki Furuya²⁾, Yuki Kishi³⁾, Hajime Nakae⁴⁾, Takumi Taniguchi⁵⁾, Yutaka Eguchi⁶⁾

利益相反：なし